

令和 3 年 2 月 1 日

大阪府北河内保健医療協議会会長 殿

関西医科大学くずは病院
病院長 高山 康夫

地域包括ケア病床から急性期病床への転換について

【病床機能の変更】

- ・急性期一般入院料 16 床 → 26 床 (+10 床)
- ・地域包括ケア入院医療管理料 26 床 → 16 床 (▲10 床)
- ・回復期リハビリテーション病棟入院料 52 床 → 52 床 (変更なし)

【急性期病床 10 床の転換理由】

当院は、急性期一般入院料 (16 床) 地域包括ケア入院医療管理料 (26 床) 回復期リハビリテーション病棟入院料 (52 床) の合計 (94 床) 地域密着型病院としての機能や、関西医科大学附属病院 (特定機能病院) の後方支援病院としてのサテライト機能も併せ持っております。また、北河内 2 次医療圏における救急医療指定機関であることから、救急の受入れも随時行っています。

特に、整形外科専門医が多く在籍していることから、整形外科系の救急を積極的に受入れており、また、特定機能病院である附属病院からの転院患者も併せて随時受入れております。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、当初の予定を大幅に超えて急性期病床が逼迫してきていることから、地域のクリニックや診療所からの入院依頼及び附属病院からの入院 (転院) 受入れや、時間外・休日の受入れに応需することが困難な状況となっています。

この為、現状の急性期一般入院料 (16 床) のままでは、地域医療密着型病院としての機能を十分に果たせなくなっていることから、当初計画していた転換時期を大幅に早める必要が出てきました。

以上のような理由から、早急に地域包括ケア病床 10 床を急性期病床 10 床へ転換するものです。

【急性期病床 10 床の転換時期】

- ・令和 3 年 3 月

以上